

平成十九年度  
今治明德短大

歩き遍路体験学習レポートから

①



今年度の結願寺・香園寺で寺の縁起を聞く学生たち

体験学習終えて

荒井 美水

歩き遍路体験学習が  
終って、早くも一週間が  
経とうとしています。遍  
路では暑さと渴き、そし  
て足の痛みに耐え、ただ  
ひたすら歩くことで精一  
杯でしたが、今になって  
思えばその時多くのこと  
を学んでいたと思います。  
五月の「さつき遍路」

で二日間歩いた際、運動  
不足を痛感し、今回の歩  
き遍路にあたっては自分  
なりに歩く練習をしてき  
ました。これで十分だと  
いう自負もあり、意気  
揚々として臨みました。  
それが大きな間違いだと  
気付いたのは、初日の午  
後からでした。九月の中  
旬にもかかわらず厳しい  
残暑に水分を多く取りす  
ぎ、上り下りの遍路道で  
完全にばててしまいまし  
た。  
お茶を買おうにも山の  
中に自動販売機はありま  
せんし、気温も上がるば  
かり。体調を崩して伴走  
車に乗った仲間  
をなつかば羨まし  
く思いながら  
も、その日は何  
とか乗り切りま  
した。  
私が先達を努  
めたときは皆の  
先頭に立とうと  
いう気負いと、  
その日行く札所  
の多さからペー  
スをあげて歩き  
ました。とにかく  
予定通り歩こ  
う、遅れてはい  
けないという  
思いで、ひたす  
ら歩き続けまし  
た。それは周り  
を顧みず、ただ  
自分の都合で歩  
いただけでし  
いた。後ろを振り返って確  
認することをせず、札所  
に着けばわれ先に座り込  
んで、次の出発時間を伝  
えている人のことなどお構  
いなしの自己中心的な  
名ばかりの先達だったと  
思います。  
リタイヤした仲間を  
「若いのに情けない」と  
か、荷物を伴走車に乗せ  
たり仲間を持つてもらっ  
た人を軟弱という見方しか  
できませんでした。そう  
いう自分も荷物を伴走車  
に乗せていたのですから  
。それを恥じて、先行  
してはまた列を乱すとい  
う悪循環を続けていまし  
た。  
そんな私が最後まで歩  
き通せたのは、多くの人  
たちが支えてくれたから  
です。同じ班の仲間や先  
生方、お接待くださった  
たくさんの方々、励まし  
の言葉を掛けてくださっ  
た道行く人たち、宿坊で  
お説教してくださった人  
などのお力添えがあった  
からです。  
気負って歩いていたの  
が自然に周りを気遣うよ  
うになり、仲間の手を差  
し伸べることも普通にで  
きるようになりました。  
最後の札所香園寺に全員  
が無事着いたとき、感謝  
の思いでいっぱいになり  
ました。  
歩き遍路が終って、本  
当の道のりが始まるのだ  
と思います。これからも

気負い消え仲間気遣うように

多くのことを学び、より  
一層高みを目指していかな  
ければなりません。が、  
苦しいとき辛いときには  
お遍路のことを思い出し  
乗り越えて行きます。  
足にできたマメは消え  
るでしょうが五日間に体  
験した出来事、思いは  
ずっと残り続けるでしょ  
う。